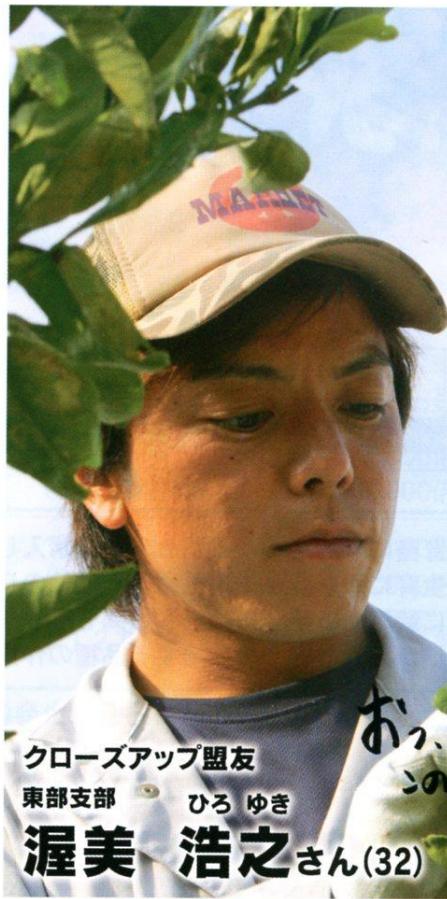




JA YOUTH
青年活動

この苗にミカンが 採れる頃には



クローズアップ盟友
東部支部 ひろ ゆき
渥美 浩之さん(32)

東部支部に新メンバーが仲間入り。今回紹介の浩之さんは11年務めた自動車ディーラーの会社を辞め、昨年12月に就農しました。ミカンとイチジクを栽培する「渥美農園」を継ぐべく奮闘中の新鋭、32歳の姿をクローズアップです。

これからの事

今後の目標は…まだまだ仕事を覚えるのに必死です。とにかく一年やり通し、それから目標を作っていきたいです。

あとがき

8月初旬、猛暑が続く天候のなか、グレーのつなぎと帽子をかぶりながら苗の世話をする姿。もうすぐ、2児のパパになる浩之さん。今年植えたミカンの苗とともに成長していくことでしょう。(東部支部 支部長 井口 洋介)

父の仕事ぶりは楽しそうだった

幼い頃から、町内外の小学生の農業体験学習の受け入れや、高校生とコラ

ボしたジャムの販売など、幅広く活躍する父親の背中をみて成長しました。(地元の東小には「渥美のおじさんありがとう」という歌があるそうです)



ミカンの貯蔵庫の空くオフシーズンは、なんとカラオケ道場が開場。



今年、ユンボを操作して苗を定植。機械操作はお手の物。

真夏の昼、他の農家が暑さを避ける時間でも畑に仕事へ出かけます。夕方には子供を迎えに行きますから。サラリーマン生活と明らかに違う仕事のリズム。自分で時間の使い方を考える事にもまだまだ慣れません。就農して1年も経ってないので、ミカン農家の一年の流れはもろろんのこと、一つ一つの作業も初めて知ることばかりです。毎回参加している農青連のサラリーマン柑橘講座はとて勉強になります。苗木の防除や剪定は難しく、これからもっと学んでいきたいです。(特に剪定の技術は難しくって仕組みの理解に苦労しているそう。7月の講座ではエカキムシにかじられた苗の葉を指摘され悔しい思いも)

告知

11/17

中澤佳也さん、後藤日出輝さんペア



『東海北陸地区発表大会』

三重県ホテル志摩スペイン村にて青年の歌「君と」歌唱コンクールで静岡代表として出場予定。